

平成28年度 第2回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成28年10月26日(水)午後2時30分～午後4時30分

◇ 会 場 埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま)  
セミナー室1

◇ 出席者 (1) 出席委員  
長谷部俊幸委員 深堀敬治委員 安藤正徳委員  
杉山きく子委員 中村公雄委員 早川恭子委員  
平野正美委員 吉田征人委員 若松昭子委員

(2) 図書館職員

【熊谷図書館】

代島館長 大嶋副館長 関副館長 荻原主席司書主幹  
前野司書主幹 蓮見司書主幹 町田担当課長  
嶋村主任専門員

【久喜図書館】

及川館長、松田副館長、銭場教育主幹  
小西司書主幹

(3) 教育局職員

【市町村支援部】

阿部副参事

◇ 会議次第

1 開 会 [熊谷図書館 大嶋副館長]

2 あいさつ 熊谷図書館 代島館長

3 第1回会議録報告  
全出席委員に異議がなく、承認された。

4 会議録署名委員の指名  
会長が、長谷部委員と深堀委員を指名し、了承された。

5 会議の公開について議決  
会議の公開を決定した。

傍聴希望者は1名との報告があり、会長の指示で傍聴者を入室させる。

## 6 議 事

### (1) 県立久喜図書館の健康・医療情報サービスについて

〔久喜図書館 小西司書主幹〕

資料1のとおり説明（プロジェクター使用）

#### 【質疑】

委員／このサービスは、何人の体制でやっているのか。図書館の仕事全体に占める割合はどのくらいか。担当者は専門性を高めていくと思うが、大きな組織では人事異動がある。どのくらいの期間在籍していただけるのか。

また、今の説明は生活習慣病に重点を置いていたが、最近の大事なこととして、精神衛生の問題がある。発達障害なども取り組んでいかなければならないと思うが、それには人と予算がたくさんいる。そういうことに対して今後どのような展望を持っているのか。

事務局／このサービスは自然科学・技術資料担当内で行っており、担当者は4名である。その中で、健康・医療情報サービスをメインとする担当者は1名、副担当者としては私を含めて2名いる。メインの担当者は仕事のかなりの部分をこのサービスにかけているが、それだけではなく技術資料分野も担当しており、それ以外にも多くの仕事があるので、全ての時間をこのサービスにかけられるわけではない。ただ、このサービスについては、いろいろな研修が日本図書館協会や医学図書館協会で開催されており、メインの担当になった職員にはそうした研修にはできる限り出席してもらうようにしている。

在籍年数は、職員にもよるが、私自身はこのサービスを最初に立ち上げたときに4年いた。その後、何年かおいて戻ってきて、今年度は4年目になる。短い期間で異動する場合もあるが、事業が継続できるように全員が替わることがないように配慮してもらっている。

委員／精神医療の扱いはどうか。

事務局／精神医療についてもテーマを設けてイベントをすることはある。何年か前に、うつ病に関する資料展示と「働くひとのメンタルヘルス」という題の講演会を行った。

精神医療とは少し異なるが、今までも隔年で行っていた認知症についての展示やイベントなども今後実施したい。

### (2) 県立熊谷図書館のビジネス支援サービスについて

〔熊谷図書館 前野司書主幹〕

資料2のとおり説明（プロジェクター使用）

#### 【質疑】

委員／高校、学校教育の関わりの中で質問する。今、商工会議所や県の労働

部との連携の話があったが、ハローワークとの連携はどのような形で行っているのか、あるいは予定があるのか聞きたい。

また、高校生も大学生もビジネスを始める要素があるので、キャリア学習の一環として、ビジネス支援を考えていただくとありがたい。キャリア学習の中で自分のビジネスを立ち上げようとする高校生や、大学生でありながらビジネスを行っている学生もいる。高校生、大学生に対してどのような支援をしているのか、聞きたい。

事務局／ハローワークと同じことはできないので、まずはハローワークの職員に向けて利用案内を配布した。ハローワークの職員の方も気に留めてくれ、昼休みに訪ねて来てデータベースを閲覧している。今のところ連携は考えていない。

高校生に対する支援については、今年8月に県の高校教育指導課の指導主事と意見交換をした。アクティブラーニングの中で、高校生がビジネスプランを作成する際に、ビジネス支援室のデータベースを活用することを提案した。しかし、商業科の高校は資格を取ることを主眼に置いており、教員もそれをサポートしているので、ビジネスプランを作成する状況にはないということであった。ただし、県立図書館としては、高校生への支援は高等学校に設置されている学校図書館と一緒にやって行かなければならないと考えている。そのため、まず初めに利用案内を県の高等学校図書館協議会の事務局から全県の高校に向けてメールで送付してもらい、高校の司書の方の作っているサイトにビジネス支援室の記事を掲載してもらった。また、商業科を設置している高校には利用案内を郵送した。さらに、高校の司書の方々にビジネス支援関係の資料を知ってもらい、活用してもらうために、県北部にある高校の司書の方を中心に直接PRをしていくことを今検討している。

大学生に対しては、これからビジネス支援講座を開催するので、近くの立正大学に声掛けするつもりである。利用案内等を大学に配布したので、大学生がレポート作成でデータベースを利用することが結構あり、引き続きそういう形で大学生のサポートをしていきたい。ただ、これから大学生をどのようにサポートをしていくかという考えはまだないので、何かアイデアあればお聞かせ願いたい。

委員／データベースについて500件の利用があったということだが、一度調べて帰る方が多いのか、それとも一度調べてまた次は別のものを調べに来るリピーターなのか、そういった利用の状況が分かれば聞きたい。

事務局／データベースの利用で多いのは、日経テレコン21、市場情報評価ナビMieNa、それからCD-Eyes50という企業検索ができるもので、固定で利用があるのは、企業検索をする方である。特に「TSR

企業情報ファイルCD「Eyes 50」は、非常に高価なため持っている図書館が少なく、その利用目的で定期的に来る方がいる。

市場情報評価ナビMieNaについては、インキュベーション施設や商工会議所でPRした関係もあり、例えば事業化拡大に際して特定の地域で預金1000万円以上の方がどのくらいいるかとか、高齢者の方がどのくらいいるかなどを調べるに来る方がいる。

委員／資料のシート2の「ビジネス支援サービスの効果」の図で、支援対象として県民の「困窮」や「メンタル不安」があり、こういう事もビジネス支援サービスの対象に入ると知って新鮮に感じた。ビジネス支援サービスを利用する動機の部分だと思うが、実際に話を聞いた中ではあまりこれに該当するのはなかったように見受けられた。何か具体的に事例があれば教えてほしい。

事務局／具体的な事例はないが、メンタル不安関係の資料として、例えばコミュニケーション関係で悩んでいる方向けの資料やこういう上司にはこういう働き方がよいというような内容の資料があるので、悩み、不安をお持ちの方がいらしたら案内できる。

委員／自分の狭い領域とは全く別の領域で、非常に専門性の高い図書館サービスを行っているということを二つの図書館から発表いただき、驚きと同時にとても感動している。ますます取り組みを充実させて住民のサービスにつながるよう期待する。

委員／今説明いただいた二つの件は、事例の発表か報告かどちらなのかと思いつながりながら聞いていた。報告としては、今までやってきたこと、これからやることを話していただいたと思うが、せっかくパワーポイントでまとめたのに最後に「ビジネス支援サービスのこれから」が1枚だけではもったいない。これからの取組を私たちは一番知りたいので、もし今後のことがあるならもう少しそこを教えていただければよかった。

また細かいことだが、ビジネス支援資料の紹介①の中で、ビジネス図書で紹介に「公務員のためのクレーム対応マニュアル」が記載されていた。事例として、もっと他に紹介できる資料があったのではないかと思った。昨今のニュースを聞いているとパワハラや、会社という組織の中で苦労している方がたくさんいて、「働き方について」とか、「上司との関係について」とか、そういう方向けのビジネス書などたくさんあると思う。その辺のところを紹介されていればよかったと思う。これからも県内全域を対象にたくさんサービスしていただき、次の機会にはより詳しい報告をお願いしたい。

会長／関係機関と連携してということだったが、市町村立図書館でもビジネス支援を目玉としているところがある。県立図書館のビジネス支援は、

それらとどこが違うのか、あるいはどういう方向を目指そうとしているのか聞きたい。外部から見ると、市立図書館のビジネス支援と県立図書館のビジネス支援の違いというものが分かりにくいように思う。どのような役割分担を考えているのか、またこれから目指そうとしているのか教えてほしい。

事務局／ビジネス支援関係の資料数だけを見ると、さいたま市立図書館など大きな図書館と比較して県立図書館は少ないと思う。しかし、県立図書館にはその他に地域行政資料があり、全県の地域資料を古いものから持っているので、ビジネス関係の資料だけではなく埼玉県全域の地域の資料についても調べることができる。また外国語資料もあるので、あらゆる分野の資料を調べることができる。そうした点で市立図書館とは違うと考える。さいたま市立図書館や川口市立図書館と比べると、予算も規模も少し劣るかもしれないが、県立図書館は蓄積という点で県民の方にサポートできていると思っている。

また、県立図書館は埼玉県全域を対象としており、県内に住んでいる方ばかりではなく県内の学校や会社に通っている方も県立図書館を利用できる。

さらに、県立図書館は、住民への直接サービスだけでなく、県内公共図書館を支援するという間接的なサービスも担う。例えば、ビジネス支援サービスの一環として、県内市町村との調整、職員研修、サービスに関する情報提供など、間接サービスを行っている。こうした第二線図書館としての役割を今後さらに意識していきたい。まだ立ち上げ1年目なので、次の機会にさらに充実した報告をしたい。

### (3) その他

#### ア 「図書館と県民のつどい埼玉2016」について

[熊谷図書館 蓮見司書主幹]

#### 資料3に基づき説明

##### 【質疑】

会 長／前回のさいたま市民会館うらわと比べて、会場となる北本市文化センターの広さや使い勝手などはいかがか。

事務局／昨年会場が変わり、講演会の人数が減ったという指摘をいただいたが、今回の会場は700名以上入る。また、昨年は荻原さんの講演の中で赤ちゃんの泣き声をしたのはいかなものかというご意見もあったが、今回はホールの中に母子室という設備があり対応できるとのことなので、その点では改善が図れたと思う。

会 長／前回は動線がスムーズでなかったと言われていたが、今回も2階、3

階などの階を使用するのか。

事務局／今回も階を超えて使用することになるが、前は6階までのエレベーターが1基しかなかったが、今回は階段とエレベーターがあり、子ども読書関係については3階の並んでいる部屋3つを使用して実施する。児童図書のリサイクルについては、2階のやはり並んでいる部屋と展示ホールを使って実施する。同じ内容のものは同じフロアで実施する予定である。

委員／資料3の(2)アの報告と交流「学校図書館のいま～法改正はしたけれど～」の主な対象者は誰か。また、この先県立図書館としてこれをどうしようと思うのか、より発展させる形で何か考えているのか。開催しただけでは、もったいない気がする。その点を説明いただきたい。

事務局／この子ども読書活動交流集会というのは、県内で子ども読書活動に携わる方の研修会という位置づけになっている。従って、小中学校の学校図書館に関わっている方が対象ということになる。教員、学校司書という形で配置されている方、ボランティアの方、あるいは、子ども読書活動に興味のある父兄とか、学校図書館というつながりだけで、それ以上の想定はしていない。そして、この集会は、その回のテーマに興味を持つ子ども読書活動の関係者が一堂に集まる研修の場を設けるというスタンスで県立図書館はやっており、これについて今後どうするかというのはあまり考えてない。場を設けることが我々の目的と考えてやっている。

会長／アの場合は、対象者は、司書や司書教諭や学校図書館関係者ということになると思うが、その方々への広報として何か特別なことを考えているのか

事務局／応募者数が少ないという話かと思うが、これは企画段階から学校図書館協議会が関わっており、それにもかかわらず人数がやや少ないので我々も少し焦っている。この事務は久喜図書館の子ども読書支援担当の方がやっているが、そちらから県内の学校図書館関係者に働きかけをしてもらうことになっている。

教員、司書の方以外に、小中学校を活動の場にして読書活動に関わるボランティアを行う方は数多くいるので、そういう方たちにも働きかけをしているところである。

会長／このタイトルを見ると学校図書館関係の学会や図書館情報学の学会などでも興味や魅力のあるタイトルなのではないかと思う。今回は埼玉県民を対象にしたイベントの一つではあるが、子どもの読書にもう少し深く関わっている人たちや研究者などに向けてアピールすると、参加したいという方がいると思う。図書館雑誌とか、図書館情報学会のサイトなどでこの情報を掲載していただくのも一つの手かなと思う。学会では、

かなり限られた人たちで意見交換するので、実際にそこに関わるボランティアの方とか一般の方たちと意見交換するという機会はあまりない。そういう意味でいろいろな人たちがこの報告を聞いて一緒にその内容を共有することができればとても面白い企画になると思う。是非、いろいろなところでアピールしていただきたい。

委員／関連の話で、参考に聞いておきたいが、埼玉県の小中学校における司書の配置率はどのくらいなのか。

事務局／小中学校については、本日、数字を持っていない。

会長／次の機会によろしくお願ひしたい。

## イ その他

埼玉県立図書館の Twitter 運用開始について

[熊谷図書館 蓮見司書主幹]

資料「Twitter の運用開始について」に基づき説明

### 【質疑】

委員／まだ運用を開始されたばかりということだが、是非、一日2回にこだわらず、新しい情報があったら、随時、発信いただきたい。Twitter は、ツイートの数が多くなるとフォロワーが増えないと思う。今までなかなかPRできなかった情報を無料で簡単にPRできるので、検索ワードに何か引っかかるようなハッシュタグを付けて是非ツイートして欲しい。たとえばこの石田衣良さんのような著名な講師を呼ぶときに、石田衣良さんにハッシュタグを付ければ、おそらく埼玉県民でなくても、石田衣良さんのファンは読むだろう。そして、そのツイートがきっかけで、いろいろな方のアクセスが増えると思う。検索ワードを皆さんの関心のあるものにして、Twitter を有効に利用していただきたい。

併せて、気になった点がある。本日、配布されたガイドやパンフレット、チラシは大変きれいに作ってあって有用かなと思う。高齢の方を含めて皆さん携帯やスマホを持っているので、かなり利用されているのが現状かと思う。しかし、ガイドやパンフレット開けると、ウェブサイトの紹介がすべてURL表示である。例えば、久喜図書館の「健康・医療情報リサーチガイド」の28ページ、このページに限らないが、これを全部打ち込んでウェブサイトを探す方は、たぶん少ないと思う。慣れている方であれば、検索ワードで探せると思うが、慣れていない方にURLの打ち込みは難しい。QRコード添付するとか、何かもう少し利用者の実態に合わせて使い勝手の良いものを取り入れていただくとさらによい。この28ページの相談窓口一覧は、とてもよいページだと思うが、直接電話するのはハードルが高く、いったんウェブページを見てからと

いう方がほとんどだと思う。そのウェブページを確認するところで引っかかると、もう先に進めないというのが現状かと思う。また、こうした従来の紙のパンフレットやチラシもとても大事だが、今後は少しウェブサイトの充実にも労力を割くことも必要かと思う。是非、次回作成の際に検討いただきたい。

会 長／そういう意味では、前にもウェブサイトをもう少し魅力的にしてほしいという意見があったかと思う。確かに堅いという感じがしている。予算の関係もあると思うが、是非、その辺にも力を入れていただきたい。

議事終了

平成28年度の第3回協議会は、平成29年2月14日（火）午後、久喜市で開催する予定。

6 閉会

〔熊谷図書館 大嶋副館長〕

会議録署名

会 長 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印